

日本周産期・新生児医学会
専門医制度

認定外科医申請要領

2023年3月

一般社団法人
日本周産期・新生児医学会

目次

〈申請書類記載上の注意〉	4
■全般的注意事項	4
■申請書別注意事項	4
1. 日本周産期・新生児医学会 認定外科医申請書.....	4
2. 症例要約.....	4
3. 指導医推薦状	5
4. 取得単位集計表.....	5
5. 学術集会参加記録簿.....	5
6. 学術論文刊行記録簿.....	5
【参考】申請時の学術業績.....	6
【書類の送付先・問合せ先】	6
1. 症例要約記載例	7
2. 学術集会参加記録簿の記載例	9
【参考】	10
1. 会員登録の変更_マイページからの変更手順①.....	10
2. 会員登録の変更_マイページからの変更手順②.....	11
3. 申請書類等のダウンロード	12

2023 年度 日本周産期・新生児医学会 認定外科医申請 告示

2023 年 3 月 15 日

一般社団法人日本周産期・新生児医学会
理事長 田中 守
専門医制度委員会 委員長 高橋尚人
副委員長 関沢明彦

『一般社団法人日本周産期・新生児医学会認定外科医規定』に基づき、日本周産期・新生児医学会認定外科医（以下、認定外科医）の申請を下記のように実施する。

2023 年度日本周産期・新生児医学会 認定外科医申請 —実施要領—

I. 申請資格

1. 医師免許証（医籍）を有する。
2. 外科専門医取得のみでは申請資格を満たさず、サブスペシャリティ領域の専門医資格を取得している。
3. 申請時において継続して3年以上日本周産期・新生児医学会会員であり、会費を完納している。
4. 日本周産期・新生児医学会専門医制度が認定している基幹及び指定認定施設に3年以上勤務している。
※申請する時、本会の認定施設に勤務していなくても、3年以上認定施設に勤務していた場合は申請できる。ただし、申請時に所属している施設の上長の署名が必要。
5. 申請時に申請料（3,000 円）を納付している。
6. 認定外科医規定施行細則に規定された必要症例数及び学術業績を満たしている。

II. 申請時の注意事項

1. 申請期間内に申請書を日本周産期・新生児医学会事務局宛てに追跡できる方法で送付する。
2. 申請時には15例（出生前診断3例を含む）の症例報告が必要である。
※記載できるのは入会年月から受験年の7月31日までの経験症例である。

III. 申請書類

1. 日本周産期・新生児医学会 認定外科医申請書
2. 症例要約
3. 指導医推薦状
4. 取得単位集計表
※送付された参加証は返却しない。
5. 学術集会参加記録簿
6. 学術論文刊行記録簿
7. 医師免許証（医籍）のコピー
8. サブスペシャリティ領域の専門医の認定証のコピー（現在有効）
9. 申請料の振込票のコピー

IV. 申請料

3,000 円（郵便振替で下記口座へ納入する）

振込の際は、会員番号と氏名を振込み名義の頭に必ず記載すること。

郵便局 振替口座番号 00100-6-704183

口座名称 一般社団法人日本周産期・新生児医学会専門医制度委員会
シヤ) ニホンシユウサンキ シンセイジイガクカイ（全てカタカナ全角）

他の金融機関からの振込

ゆうちょ銀行 ○一九（ゼロイチキユウ）店 当座 0704183

ネットバンキングの場合の口座名称

シヤ) ニホンシユウサンキ シンセイジイガクカイ (全てカタカナ全角)

(誤) シヤ → (正) シヤ

V. 申請期間

2023年8月1日(火)～8月31日(木)(当日消印有効)

※申請期間以外の申請書の提出は受け付けない。

VI. 申請における注意事項

1. 提出された申請書類に不備，不足等があった場合，受理しないことがある。また，訂正・再提出を求めることもあるが指定期限内に到着しない時は申請資格を失う。
2. 申請料はいかなる事由があっても返還しない。
3. 申請書の受理通知は10営業日以内にメールで送信する。受理通知が届かない場合は必ず事務局に問合せる。 問合せがない場合は申請資格を失うこともある。

VII. 合否決定

申請書類について，専門医認定委員会で協議のうえ合否の決定を行う。

VIII. 合格発表

11月中に学会ホームページの「専門医関連」に会員番号で発表予定。

IX. 登録

1. 合格者は登録料10,000円を添えて学会に登録を申請する。
2. 学会は，上記登録申請のあった者に対して，学会の認定外科医として登録するとともに認定証を交付する。登録料は「IV. 申請料」に記載している口座に納入する。

X. その他

告示の補足や関連情報が学会ホームページの「専門医関連」に掲載されることがあるため，最新情報は学会ホームページで確認すること。

【書類の送付先・問合せ先】

※認定外科医申請に関する質問はメールで問合せること。原則として電話での問合せには応じない。

〒162-0845 東京都新宿区市谷本村町2-30 日本周産期・新生児医学会 事務局

E-mail : senmoni@jspnm.org

〈申請書類記載上の注意〉

■全般的注意事項

1. 認定施設とは本学会が認定する基幹施設と指定施設である。学会ホームページの以下の URL で施設名・施設番号, 指導医を確認できる。

【新生児】

施設:<http://www.jspnm.com/Senmoni/ShisetsuS.aspx>

指導医:<http://www.jspnm.com/Senmoni/ShidoiS.aspx>

【母体・胎児】

施設:<http://www.jspnm.com/Senmoni/ShisetsuB.aspx>

指導医:<http://www.jspnm.com/Senmoni/ShidoiB.aspx>

2. 年月日はすべて西暦表記とする。
3. 各種連絡に使用するので, 必ず使用できる E-mail を記載する。施設を異動した際は, 会員ログイン後のマイページあるいは「会員登録の変更」内の「変更オンライン登録」から, 勤務先・E-mail 等を登録する(p10・11 参照)。

■申請書別注意事項

1. 日本周産期・新生児医学会 認定外科医申請書

- (1) 必ずヘッダーに申請者名を記載し, 使用できる E-mail を記載する。
- (2) 小児外科や心臓血管外科のようにサブスペシャリティ領域の場合, 外科専門医取得のみでは申請資格を満たさず, サブスペシャリティ領域の専門医資格を取得していること(外科専門医では申請できない)。
- (3) 略歴は卒業大学と入会年月から現在まで, 最大 10 項目まで記載する。
- (4) 認定証は, 会員情報に登録されている「送付先」に送付する。申請書提出後に異動した場合は, 会員ログイン後のマイページあるいは「会員登録の変更」内の「変更オンライン登録」から「送付先」の変更を行い, 速やかに事務局に連絡すること。

2. 症例要約

症例要約に記載できるのは, 入会年月から申請する年の 7 月 31 日までの経験症例である。

- (1) 症例として申請できるのは, 術者, 指導助手, 第一助手, 第二助手として担当した新生児外科手術症例で, それぞれが同一症例を提出することができる。
- (2) 新生児外科手術症例に該当するのは, 生後 30 日までの期間に手術された症例とする。
- (3) 新生児外科手術症例は 10 例以上とし, 残りの 5 症例については経験症例であれば診断のみを行った症例を記載することを認める。
- (4) 新生児領域のみ認定施設として承認されていて, 母体・胎児領域が認定施設ではない場合は, 新生児領域の経験症例を 15 例記載することを認める。母体・胎児領域が本会の認定施設の場合は, 症例要約-2 (出生前診断用) の症例を必ず 3 症例記載する。
- (5) 施設番号: 記載する症例を経験した施設の施設番号を記載する。

新生児領域の認定施設:<http://www.jspnm.com/Senmoni/ShisetsuS.aspx>

母体・胎児領域の認定施設:<http://www.jspnm.com/Senmoni/ShisetsuB.aspx>

- (6) 患児の出生年月と受持開始時日齢および受持期間に齟齬がないか確認する。
- (7) 転帰欄を選択するときは、転科は他科主科となり外科の治療は終了している場合、入院中は主科を問わず外科の治療を継続している場合に選択する。
- (8) 診断名・手術名：略語を用いず正式名称を使用し、最新の医学用語辞典、外科学用語集に準拠すること。
- (9) 12ポイントを使用し、すべての項目についての的確に記載すること。記載に不備がある場合は、不合格となることがある。

3. 指導医推薦状

※申請書を提出する時点で所属している施設の指導医の署名を得る。ただし、申請時に認定施設外の施設に所属している場合は、上長の署名とする。

新生児症例用は新生児指導医に、出生前診断用は母体・胎児指導医の署名を得る。新生児領域のみ本会の認定施設で、15例すべてが新生児症例用の場合は、母体・胎児指導医の推薦状は必要ない。

新生児指導医：<http://www.jspnm.com/Senmoni/ShidoiS.aspx>

母体・胎児指導医：<http://www.jspnm.com/Senmoni/ShidoiB.aspx>

4. 取得単位集計表 **※送付された参加証は返却しない**

記載できるのは以下の条件を満たしている場合のみである。

- (1) 周産期・新生児学に関連するもの
- (2) 申請する年の3年前の7月1日から申請する年の7月31日までの参加・発表
- (3) 発表は筆頭演者としての発表のみ
- (4) 査読の有無は申請者自身が確認する

5. 学術集会参加記録簿

- (1) 必要な枚数をコピーして使用する。
- (2) 参加証は原則オリジナルの提出とするが、名前の記載がある場合(ネームプレート)はコピーでも可。
- (3) 学術集会での発表は、抄録のコピーを添付する。

※第38回周産期学シンポジウム(2020年2月開催)の参加証明は、参加証と出席証明書のいずれの提出も必要となるので注意すること。

6. 学術論文刊行記録簿

単位として申請する場合のみ記載する。

- (1) 新生児外科領域に関連した論文に限る。
- (2) 査読の有無は申請者自身で確認する。
- (3) 論文の別刷(コピー可)を添付する。

【参考】申請時の学術業績

過去3年間の会員期間中の学術業績の合計が20単位以上、うち*の合計が10単位以上。

1. 10単位

- 1) 周産期・新生児学に関連した学術論文を査読制度のある雑誌に筆頭著者または corresponding author として発表し、それを専門医認定委員会が認めた場合*
- 2) 以下のいずれかへの学術集会への参加(筆頭演者としての発表があれば5単位を追加)
日本周産期・新生児医学会 学術集会*
日本周産期・新生児医学会 周産期学シンポジウム*

2. 研修単位5単位/回

以下のいずれかの学術集会への参加(新生児外科領域の筆頭演者としての発表があれば5単位を追加)

- 日本産科婦人科学会*
- 日本小児科学会*
- 日本小児外科学会*
- 日本新生児成育医学会
- 日本麻酔学会
- 日本母体胎児医学会

3. 論文単位5単位/編(査読の有無を問わないが、筆頭著者としての発表であること)

【書類の送付先・問合せ先】

※認定外科医申請に関する問合せはメールでの受付とする。

〒162-0845 東京都新宿区市谷本村町2-30 日本周産期・新生児医学会 事務局

E-mail: senmoni@jspnm.org

1. 症例要約記載例

1) 症例要約-1 (新生児症例用)

症例番号 1		施設番号	NA00000	記載症例を経験した施設番号を記載する
西暦 2015 年 2 月生	男・女	在胎 26 週 3 日	出生体重	820 g
受持開始時日齢	6	受持期間	2 月 15 日 ~ 5 月 20 日	この部分の月日に齟齬がないか確認する
診断名	特発性小腸穿孔			
手術名 ※手術した場合のみ記入	小腸部分切除術			
手術時の役割 ※手術した場合のみ記入	術者	指導助手	第一助手	第二助手
転 帰*	生(存)退院 死亡退院 転院・転科 入院中 その他			
家族歴	特記事項なし			
妊娠分娩経過	母 35 歳、1G1P。胎児仮死にて在胎 26 週 3 日に緊急帝王切開となった。			
【主訴】:腹部膨満、腹壁色調不良、腹腔内遊離ガス		どれか 1 つ選んで○を付ける。転科は他科主科となり外科の治療は終了している場合、入院中は主科を問わず外科の治療を継続している場合		
【現病歴】:胎児仮死のため、緊急帝王切開で出生し、前医 NICU 入院。Apgar 3/7。RDS の診断でサーファクタント使用。PDA は自然閉鎖。日齢 3 より母乳開始。日齢 6 より上記主訴出現したため当院 NICU 搬送。				
【入院時診察所見】:腹部は膨隆し暗緑色に変化していた。				
【入院時検査結果】:レントゲン上腹腔内遊離ガスを認め、エコーでは混濁した腹水貯留を認めた。				
【手術を含む入院後経過(なるべく問題点別に記載)】:全身状態が保たれていたため、搬送同日に手術施行。回盲部から 5cm 口側に 8mm 大の穿孔を認め、同部位を切除し小腸端々吻合を行った。術後経過は良好で日齢 10 から経腸栄養を開始し、順調にミルクアップ可能であった。				
【患児・家族へのサポートと考察】:超低出生体重児で母がまだ入院中に当院搬送となり、ご家族の不安が強い状態であったが、新生児科、看護部、ケースワーカーとともに介入することで、理解を得ながら治療が可能であった。超低出生体重児ではあったが、頭蓋内出血も認めず、術後の経過も安定していた。				
<ul style="list-style-type: none"> •すべての項目を 12 ポイントを用いて記載する •具体的な病院名・施設名の記載はしない •誤字・脱字がないか確認する •略語を多用しない。初出時は略語のみではなく、フルスペルを記載する 				

*:入院中:主科を問わず外科の治療を継続している 転科:他科主科となり外科の治療は終了している

【記載上の注意】

1. 施設番号は記載する症例を経験した施設の番号を学会 HP の以下の URL で確認して記載する。

<http://www.jsnm.com/Senmoni/ShisetsuS.aspx>

2. 患児の出生年月・受持時日齢・受持期間に齟齬がないようにする。

新生児領域の施設番号は、下記 URL で確認する

2)症例要約-2 (出生前診断用)

症例番号 1	施設番号	PA00000
西暦 2016年 11月生	男・ 女	在胎 36週 6日
出生体重	3902 g	
受持開始時日齢	0	受持期間
		11月 23日 ~ 12月 23日
診断名	仙尾部奇形腫	
手術名 ※手術した場合のみ記入	仙尾部腫瘍摘出術	
手術時の役割 ※手術した場合のみ記入	術者	指導助手 第①助手 第二助手
転 帰*	生 存 退院 死亡退院 転院・転科 入院中 その他	
家族歴	特記事項なし	
妊娠分娩経過	妊娠 35 週 2 日に胎児超音波検査で異常を指摘され、当院産科紹介。胎児 MRI で仙尾部奇形腫と診断され、周産期カンファランスで検討した結果、妊娠 36 週 6 日、予定帝王切開による娩出の方針となった。	
<p>【主訴】:仙尾部腫瘍</p> <p>【現病歴】:在胎 35 週 2 日に胎児超音波検査で上記主訴指摘され、在胎 36 週 6 日に予定帝王切開で出生。出生直後に挿管し、腫瘍を保護して NICU 入院となる。</p> <p>【入院時診察所見】:外表所見に異常認めず。腹部は平坦・軟。臀部に児頭大の腫瘍を認める。</p> <p>【入院時検査結果】:血液検査に異常なし。エコー上は心疾患なく、腹部にも異常所見なし。腫瘍内は嚢胞成分が 7 割を占め、残りの 3 割に充実成分を認めた。レントゲンでは胸腹部に異常はなく、腫瘍内に石灰化病変を認めた。</p> <p>【手術を含む入院後経過(なるべく問題点別に記載)】:全身状態は安定しており、日齢 1 での予定手術の方針となり、腫瘍摘出術を施行した。出血予防として、開腹下に正中仙骨動脈の結紮を先行して行い、臀部より腫瘍を摘出した。腫瘍は 1,200g で病理検査結果では成熟奇形腫の診断であった。術後経過は良好で、日齢 30 に退院となった。</p> <p>【患児・家族へのサポートと考察】:出生前診断例であり、出生前より母や家族へのかかわりを持ち、児の状態から母体への負担や様々な予測される児の状態を説明し、理解していただいた。産科、新生児科、麻酔科など多科合同カンファランスを行うことで、十分な準備を行い、スムーズな診療が可能であった。手術に関しても血管処理を開腹下に先行させたことで術中出血がコントロール可能であった。</p>		

*:入院中:主科を問わず外科の治療を継続している 転科:他科主科となり外科の治療は終了している

※母体・胎児領域が本会の認定施設の場合は、症例要約-2 (出生前診断用) の症例を必ず 3 症例記載する。

【記載上の注意】

1. 施設番号は記載する症例を経験した施設の番号を学会 HP の以下の URL で確認して記載する。

<http://www.jspnm.com/Senmoni/ShisetsuB.aspx>

母体・胎児領域の施設番号は、下記 URL で確認する

2. 学術集会参加記録簿の記載例

参加日(西暦)	学術集会出席証明書貼付	必須単位	その他の単位
2017. 7. 15	第〇〇回 日本周産期・新生児医学会学術集会 第〇〇回 日本周産期・新生児医学会学術集会 10 単位	参加 10 発表 5	
2018. 7. 20	第××回 日本周産期・新生児医学会学術集会 第××回 日本周産期・新生児医学会学術集会 所属 〇〇〇病院 氏名 周産期 花子		
2019. 7. 19	第〇×回 日本周産期・新生児医学会学術集会	参加 10 発表 5	
2017. 1. 22	第〇〇回 周産期シンポジウム 第〇〇回 周産期シンポジウム 10 単位	参加 10	
2018. 8. 10	第〇〇回 ××学会 学術集会 第〇〇回 ××学会 学術集会		参加 5
2018. 4. 2	第〇〇回 〇〇学会 学術集会 日本 一郎		参加 5
	小 計	50 単位	10 単位
	合 計		60 単位

発表した場合は抄録のコピーを添付する

参加証がない場合はネームプレートのコピーでも可

参加証がない場合でも参加、発表していれば抄録のコピーでも可

参加証紛失の場合は指導医の署名が必要

必須単位 10 単位以上を含む、合計 20 単位以上必要

【参考】

1. 会員登録の変更_マイページからの変更手順①



施設の異動やメールアドレスの登録を変更する場合に使用する

① 会員番号・パスワード(変更していない場合は生年月日を8桁)でログイン

② ログイン後の「マイページ」をクリック

※会員登録の変更からも可能。

※E-mailは問合せ等に使用するので、必ず使用できるE-mailを登録する

2. 会員登録の変更_マイページからの変更手順②

一般社団法人 日本周産期・新生児医学会
JSPNM Japan Society of Perinatal and Neonatal Medicine

サイト内検索: 検索

ホーム | サイトマップ | ENGLISH

こんにちは、
周産 太郎 先生

パスワード変更 | ログアウト

マイページ

第53回学術集会
演題検索システム

会員専用情報

会員登録の変更

専門医制度(オンライン登録)

議事録・報告

会員へのお知らせ

本学会について

学術集会・総会

周産期学シンポジウム

周産 太郎 先生のマイページ

● 事務局からのお知らせ

- 2018/01/12 ポップアップブロックの解除について
- 2017/10/11 評議員選挙に係るマイページ確認事項
- 2017/04/18 マイページを開設いたしました

最新の状態に更新する

個人情報

会員番号	入会年月日	会員の種類	専門領域	生年月日
7854321	2017/04/01	会員	産婦人科	1999/09/09

機関誌送付先

勤務先	勤務先	勤務先
勤務先	勤務先	勤務先

※生年月日未登録の場合は「1900/01/01」と表示しています。「登録情報の確認・変更」から生年月日を登録してください

登録情報の確認・変更 退会

メールアドレス

	メールアドレス	メール配信
①	abc@def.com	希望する
②		

メール配信サービスの確認・変更

ここからも変更できる

勤務先等の変更を行うことができる

メール配信を「希望する」で学会からの情報が配信される

メール配信の登録はここから変更できる

3. 申請書類等のダウンロード



一般社団法人 日本周産期・新生児医学会
JSPNM Japan Society of Perinatal and Neonatal Medicine

サイト内検索: ホーム | サイトマップ | ENGLISH

- 本学会について
- 学術集会・総会
- 周産期学シンポジウム
- 専門医制度 (共通)
- 専門医制度 (新生児)
- 専門医制度 (母体・胎児)
- 専門医制度 (認定外科医)
- 学会誌 (電子投稿)
- 入会のご案内
- CMV感染診断サービス
- 周産期学教育セミナー

認定外科医 申請書類のダウンロード

認定外科医申請に必要な書類
認定外科医更新申請に必要な書類

日本周産期・新生児医学会認定外科医申請について

日本周産期・新生児医学会認定外科医の申請を行う時は、下記の口座に申請料(3,000円)を納付したうえで、1と2を簡易書留で事務局まで送付してください。

申請期間は8月1日から8月31日までです。

簡易書留にて下記へお送りください

〒162-0845 東京都新宿区市谷本村町2-30
株式会社カルピュー社内
日本周産期・新生児医学会事務局

銀行口座	三菱東京UFJ銀行 蒲田支店 (店番117) 普通預金口座 2127802 一般社団法人日本周産期・新生児医学会専門医制度委員会
郵便振替口座	口座番号 00100-6-704183 口座名称 一般社団法人日本周産期・新生児医学会専門医制度委員会

インターネットバンキング使用のための口座名称
シマノニホニホフウサンキョウシムカイ(ジイガクカイ (全て全角))

1. 申請書類

- (1)日本周産期・新生児医学会認定外科医申請書 PDF版 Word版
- (2)症例要約-1(新生児症例用)
- 症例要約-2(出生前診断用)
- (3)取得単位集計表
- (4)学術集会参加記録簿
- (5)学術論文刊行記録簿

2. 申請に必要なその他の書類

- (1)日本国医師免許証のコピー
- (2)二階建て専門医認定証のコピー